

# 2月の月間目標



## じぶんのことはじぶんでしよう！

### 自分で考え自分で行動できる人に育てるには！



子どもの進む先の障害物を先回りしてどけたり（過保護）、一挙一動にあれこれ指示をしたり（過干渉）するのではなく、子どもが好きなものを見付けるまで待ち、できるだけ子どもの力を信頼し、それを見守り、力づけましょう。あれこれしないで見守ることは、モノを買ってやったり、何かをしてやったりするより、ずっと難しく愛情がいます。

また、親は子どものために考えたことは正しいと思いがちですが、必ずしもそうとは限りません。自分の思いや考えを押しつけるのではなく、「あなたはどう思う？」と、まず子どもの言い分をじっくり聞き、子どもの気持ちをしっかり受け止めてから、「自分はこう思うんだが」と、一緒に考え一緒に学んでいく姿勢が大切です。子どもが自分で考え、勇気をもって行動し、達成感を味わう、または失敗から学び強くなるチャンスなどを子どもから奪わないように気を付けましょう。

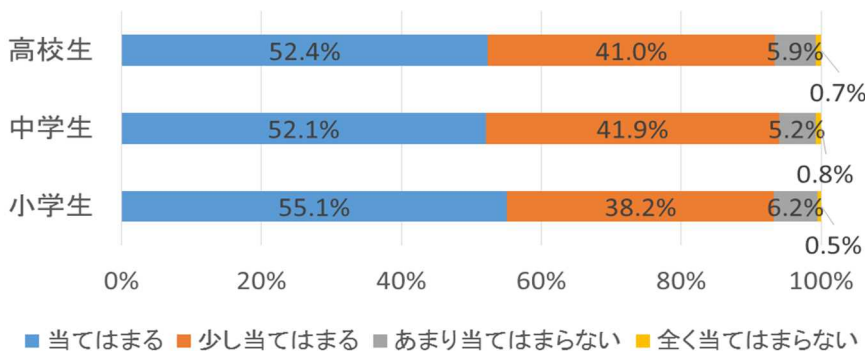
### こんなふうにしてみませんか？

そして、どれだけ何々ができるかなど、他の子どもや平均値との比較に目を奪われ、自分の期待から子どもを評価することは、子どもたち一人一人の個性や成長のために良くありません。そういう親の下では、子どもまで相対的な順位ばかりを気にするようになったり、自信をなくしたりしがちです。親は、比較して不安になるのではなく、どんなときも子どもの個性と成長を信じ、ゆっくりゆったり育てたいものです。

（文部科学省 Web ページ「家庭教育手帳—小学生（低学年～中学年）編 参照）



#### 「自分でできることは自分でする」



左のグラフから、「当てはまる」の割合は小学生、中学生、高校生で大きな差はありません。つまり、歳を重ねても、自分でできることを自分でしない子どもがどの年代でも半数近くいることが分かります。

自分で考え、自分で行動できるように育てるには、どうしたらよいか考えてみませんか。

文部科学省「睡眠を中心とした生活習慣と子供の自立等との関係性に関する調査」

（平成26年）

